

ノムラ・アジア・シリーズ (ノムラ・豪州・フォーカス)

運用報告書(全体版)

第13期(決算日2022年9月12日)

作成対象期間(2021年9月14日~2022年9月12日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/海外/株式	
信託期間	2009年12月7日から2024年9月12日までです。	
運用方針	野村豪州株マザーファンド(以下「マザーファンド」といいます。)受益証券への投資を通じて、主としてオーストラリアの企業の株式(DR(預託証券)を含みます。)に投資し、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行なうことを基本とします。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主な投資対象	ノムラ・アジア・シリーズ (ノムラ・豪州・フォーカス)	マザーファンド受益証券を主要投資対象とします。なお、株式等に直接投資する場合があります。
	マザーファンド	オーストラリアの企業の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	ノムラ・アジア・シリーズ (ノムラ・豪州・フォーカス)	株式への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	株式への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時に、原則として経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益等から、基準価額水準等を勘案して分配します。留保益の運用については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。	

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号



サポートダイヤル 0120-753104
(受付時間) 営業日の午前9時~午後5時

ホームページ <http://www.nomura-am.co.jp/>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額 (分配落)	基準価額			ベンチマーク		株式組入比率	株式先物比率	純資産額
		税込み 分配分	み 金	期 騰 落	中 率	期 騰 落			
	円	円	%		%	%	%	百万円	
9期(2018年9月12日)	14,262	200	△ 6.0	126.14	△ 2.4	86.6	—	244	
10期(2019年9月12日)	15,336	300	9.6	126.99	0.7	88.0	—	244	
11期(2020年9月14日)	14,623	250	△ 3.0	116.61	△ 8.2	89.1	—	512	
12期(2021年9月13日)	19,459	500	36.5	154.48	32.5	89.6	—	535	
13期(2022年9月12日)	22,243	600	17.4	173.59	12.4	91.3	—	187	

*基準価額の騰落率は分配金込み。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

*ベンチマーク（=S&P/ASX200指数（円換算ベース））は、S&P/ASX200指数（豪ドルベース）をもとに、当社が独自に円換算したものです。なお、指数算出にあたっては、基準価額への反映を考慮して、営業日前日の指数値を営業日当日の為替レート（対顧客電信売買相場仲値）で円換算しております。設定時を100として指数化しております。

*S&P/ASX200指数は、スタンダード&プアーズが発表している、オーストラリア証券取引所上場の時価総額上位200銘柄で構成される時価総額加重平均指数です。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービス エル エル シーに帰属しております。

(出所) ブルームバーグ、為替レート（対顧客電信売買相場仲値）

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額	基準価額		ベンチマーク		株式組入比率	株式先物比率
		騰落	率	騰落	率		
(期首)	円		%		%	%	%
2021年9月13日	19,459	—	—	154.48	—	89.6	—
9月末	18,100	△ 7.0	—	149.16	△ 3.4	86.7	—
10月末	19,804	1.8	—	163.82	6.0	90.7	—
11月末	18,653	△ 4.1	—	151.60	△ 1.9	90.5	—
12月末	19,891	2.2	—	161.37	4.5	91.2	—
2022年1月末	18,385	△ 5.5	—	145.41	△ 5.9	91.4	—
2月末	18,828	△ 3.2	—	149.52	△ 3.2	90.8	—
3月末	22,237	14.3	—	178.08	15.3	90.2	—
4月末	21,432	10.1	—	171.52	11.0	89.7	—
5月末	21,727	11.7	—	172.59	11.7	91.8	—
6月末	20,701	6.4	—	162.06	4.9	91.7	—
7月末	21,127	8.6	—	167.18	8.2	92.2	—
8月末	21,995	13.0	—	171.51	11.0	91.5	—
(期末) 2022年9月12日	22,843	17.4	—	173.59	12.4	91.3	—

*期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

*当ファンドはマザーファンドを組み入れますので、「株式組入比率」、「株式先物比率」は実質比率を記載しております。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。作成期首（2021年9月13日）の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、個々のお客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) ベンチマークは、S&P/ASX200指数（円換算ベース）です。ベンチマークは、作成期首（2021年9月13日）の値が基準価額と同一となるように計算しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

○基準価額の主な変動要因

- (横ばい) メルボルンで新型コロナウイルスに伴うロックダウン（都市封鎖）が解除されたこと、RBA（豪州準備銀行）が政策金利を過去最低水準に据え置いたこと、一方で米利上げ前倒し観測が強まったこと、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受け、市場に先行き不透明感が広がったこと
- (上昇) ロシアへの制裁措置を背景とした供給懸念から資源価格が上昇し資源関連株が上昇したこと、為替市場で豪ドル高・円安が進行したこと
- (下落) RBAによる市場予想を上回る利上げが嫌気されたこと、FRB（米連邦準備制度理事会）による大幅な利上げを受けて、世界的な景気減速への警戒感が強まったこと
- (上昇) 米国の過度な金融引き締め懸念が後退したことや大手資源関連企業が良好な決算を発表したことが好感されたこと、為替市場で豪ドル高・円安が一段と進行したこと

○投資環境

豪州株式市場は、期初、商品市況安や米長期金利の上昇を受けた米株安などを背景に下落して始まりました。その後は、メルボルンで新型コロナウイルスに伴うロックダウンが解除されたことや、国内金利の上昇を受け銀行株が上昇したことなどが好感され反発しましたが、新型コロナウイルスのオミクロン株の拡大が懸念され再び下落しました。2021年12月中旬以降は、RBAが政策金利を過去最低水準に据え置いたことや、オミクロン株への過度な警戒感が薄れたことなどから反発しました。

2022年1月に入ると米利上げ前倒し観測が強まったことや、国内の物価上昇が嫌気され下落し、その後、大手銀行の好決算などを好感し反発する局面があったものの、2月下旬には、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受け、市場に先行き不透明感が広がったことから下落に転じました。3月以降は、ロシアへの制裁措置を背景とした供給懸念から資源価格が上昇し、資源関連株を中心に上昇基調で推移しました。

4月下旬以降は、中国での新型コロナウイルス感染拡大に伴うロックダウンの長期化により、今後の需要低下が懸念され、資源関連株が軟調に推移したことや、RBAが政策金利を市場予想以上に引き上げたこと、FRBによる大幅な利上げを受けて、世界的な景気減速への警戒感が高まったことなどから下落基調で推移しました。7月中旬以降は、米国の過度な金融引き締め懸念が後退したことや、大手資源関連企業が良好な決算を発表したことを好感して上昇しましたが、期末にかけては、中国の景気減速懸念や欧米中央銀行の利上げ継続姿勢を受け世界的な株安となったことから下落し、当期において豪州株式市場は下落しました。

為替市場では、2022年3月以降、エネルギー価格の高騰やサプライチェーン（供給網）の混乱などによる物価上昇に対応するべくFRBが金融引き締め姿勢を強める一方、日銀が緩和的な金融政策を維持したことなどを背景に金利差が拡大し、米ドル高・円安が進行しました。一方、豪ドルは、主要貿易相手国である中国の景気減速懸念などから対米ドルで豪ドル安が進行したものの、対円では豪ドル高・円安となりました。

○当ファンドのポートフォリオ

[野村豪州株マザーファンド]

・期中の主な動き

<投資比率を引き上げた主な業種・銘柄>

- ①多角的に事業展開する鉱業および金属企業であり、株価のバリュエーション（投資価値評価）に割安感があると判断したSOUTH32 LTD（金属・鉱業）
- ②天然ガス価格の高騰による恩恵が期待できると判断したWOODSIDE ENERGY GROUP LTD（石油・ガス・消耗燃料）

<投資比率を引き下げた主な業種・銘柄>

- ①資源価格の高騰を背景に株価が堅調に推移してきたものの、コスト上昇による収益への悪影響が懸念された素材セクター
- ②世界的な金利上昇を背景に、株価バリュエーションの割高感が強まったと判断したXERO LIMITED（ソフトウェア）

・為替ヘッジ

当ファンドの方針に従い、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行ないませんでした。

[ノムラ・アジア・シリーズ（ノムラ・豪州・フォーカス）]

・組入比率

主要投資対象である〔野村豪州株マザーファンド〕受益証券を、期を通じておおむね高位に組み入れました。

・為替ヘッジ

当ファンドの方針に従い、為替ヘッジは行ないませんでした。

○当ファンドのベンチマークとの差異

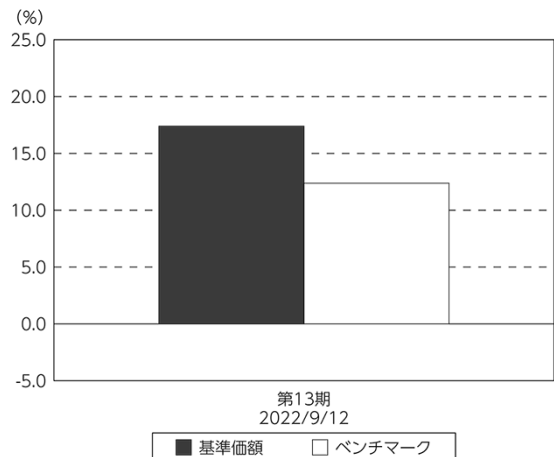
当期は、ベンチマーク（S&P/ASX200指数（円換算ベース））が12.4%の上昇となったのに対して、基準価額は17.4%の上昇となりました。

※基準価額の騰落率は、分配金（税込み）を再投資して算出しております。

（主なプラス要因）

- ①EV（電気自動車）の普及が進む中、バッテリー需要の増加によるリチウム需要の増加期待から株価騰落率がベンチマークを上回った金属・鉱業株をベンチマークより高い投資比率としていたこと
- ②世界的な供給制約の高まりなどを背景とした資源価格の上昇期待から株価騰落率がベンチマークを上回った金属・鉱業株をベンチマークより高い投資比率としていたこと

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



（注）基準価額の騰落率は分配金込みです。

（注）ベンチマークは、S&P/ASX200指数（円換算ベース）です。

（主なマイナス要因）

- ①世界的な金利上昇を背景に株価騰落率がベンチマークを下回ったソフトウェア株をベンチマークより高い投資比率としていたこと
- ②デジタルゲームビジネスの先行き不透明感が高まったことなどから、株価騰落率がベンチマークを下回ったホテル・レストラン・レジャー株をベンチマークより高い投資比率としていたこと

◎分配金

今期の収益分配金につきましては、基準価額水準等を勘案し、1万口当たり600円とさせていただきます。なお、留保益の運用につきましては、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行いません。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり・税込み）

項 目	第13期
	2021年9月14日～ 2022年9月12日
当期分配金 (対基準価額比率)	600 2.627%
当期の収益	600
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	12,332

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

◎今後の運用方針

[野村豪州株マザーファンド]

・投資環境

- ①豪州経済については、底堅い個人消費が景気の下支えになると見ていますが、急速なインフレ率の上昇は短期的に消費者心理に悪影響を及ぼすことから注視が必要と考えます。RBAは9月6日に4ヵ月連続で政策金利を0.5%引き上げ2.35%としました。また、金融政策の正常化へ向けて、今後もインフレ動向を注視しつつ、必要に応じてさらなる利上げを行なう可能性を示唆しました。
- ②株式市場については、短期的には資源関連株を中心として、コロナ禍からの経済活動正常化の動き、ウクライナ情勢、資源価格や米金融政策の動向等に左右されやすい展開が予想されます。一方で、私的年金からの継続的な資金流入があることや、オーストラリアは寡占企業が多く、コストを価格転嫁し易い構造であること、配当利回りが比較的高いことなどが市場を下支えすると見ています。

・投資方針

- ①業種別配分については、素材セクターについては、世界的な金融引き締めによる景気減速で資源需要の後退が懸念されるものの、ウクライナ情勢を背景とした供給制約が続く中、オーストラリアが安定した資源供給国として、今後も継続的な資源需要が期待できることから、投資比率をベンチマークより高めに維持する方針です。金融セクターについては、短期的に金利上昇の影響が懸念されるものの、中長期的な収益成長が期待できる各種金融株の投資比率を高めに維持する方針です。一方で、厳しい競争環境などから銀行株の投資比率を低めに維持する方針です。経済活動正常化やインフレの恩恵が期待できる銘柄、高齢化対策や教育需要の高まりなど、中長期のテーマで成長が期待できる銘柄について、幅広い業種で投資を行なう方針です。
- ②銘柄選択は、個別企業の財務リスクなどに注意しながら、今後も高い成長が期待でき、かつ成長性と比較して割安と判断される銘柄などを中心に投資を行なう方針です。

[ノムラ・アジア・シリーズ（ノムラ・豪州・フォーカス）]

[野村豪州株マザーファンド] 受益証券を主要投資対象とし、信託財産の成長を目指して積極的な運用を行ないます。実質組入外貨建資産については、引き続き、為替ヘッジを行わない方針です。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○ 1 万口当たりの費用明細

（2021年9月14日～2022年9月12日）

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 344	% 1.700	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
（ 投 信 会 社 ）	(167)	(0.823)	ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、法定書面等の作成、基準価額の算出等
（ 販 売 会 社 ）	(167)	(0.823)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等
（ 受 託 会 社 ）	(11)	(0.055)	ファンドの財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行等
(b) 売 買 委 託 手 数 料	21	0.106	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（ 株 式 ）	(21)	(0.103)	
（ 投 資 信 託 証 券 ）	(1)	(0.003)	
(c) そ の 他 費 用	46	0.229	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
（ 保 管 費 用 ）	(45)	(0.222)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
（ 監 査 費 用 ）	(1)	(0.004)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
（ そ の 他 ）	(1)	(0.003)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	411	2.035	
期中の平均基準価額は、20,240円です。			

* 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

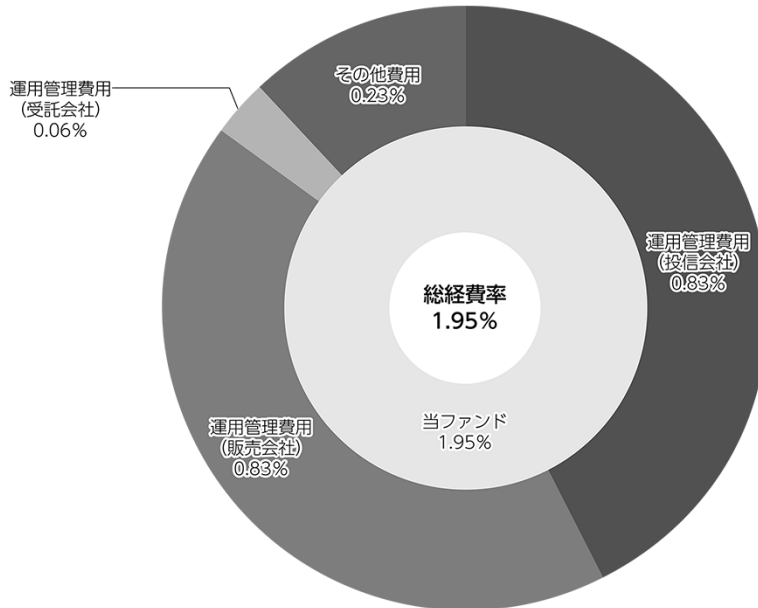
* 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

* 売買委託手数料およびその他費用は、このファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

* 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

（参考情報）**○総経費率**

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.95%です。



(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料及び有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 当ファンドの費用は、マザーファンドが支払った費用を含みます。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2021年9月14日～2022年9月12日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
野村豪州株マザーファンド	千口 6,917	千円 19,904	千口 144,009	千円 389,096

*単位未満は切り捨て。

○株式売買比率

(2021年9月14日～2022年9月12日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期	
	野村豪州株マザーファンド	
(a) 期中の株式売買金額	523,771千円	
(b) 期中の平均組入株式時価総額	160,987千円	
(c) 売買高比率 (a) / (b)	3.25	

* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2021年9月14日～2022年9月12日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2022年9月12日現在)

親投資信託残高

銘 柄	期首(前期末)	当 期 末	
	口 数	口 数	評 価 額
野村豪州株マザーファンド	千口 193,904	千口 56,812	千円 187,333

*口数・評価額の単位未満は切り捨て。

親投資信託における組入資産の明細につきましては、後述の親投資信託の「運用報告書」をご参照ください。

○投資信託財産の構成

(2022年9月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
野村豪州株マザーファンド	187,333	96.4
コール・ローン等、その他	7,018	3.6
投資信託財産総額	194,351	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

*野村豪州株マザーファンドにおいて、当期末における外貨建純資産（186,380千円）の投資信託財産総額（187,334千円）に対する比率は99.5%です。

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1豪ドル=97.75円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年9月12日現在)

○損益の状況 (2021年9月14日～2022年9月12日)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	194,351,379
コール・ローン等	7,017,572
野村豪州株マザーファンド(評価額)	187,333,807
(B) 負債	6,648,324
未払収益分配金	5,063,282
未払信託報酬	1,582,044
未払利息	6
その他未払費用	2,992
(C) 純資産総額(A-B)	187,703,055
元本	84,388,047
次期繰越損益金	103,315,008
(D) 受益権総口数	84,388,047口
1万円当たり基準価額(C/D)	22,243円

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	△ 94
支払利息	△ 94
(B) 有価証券売買損益	30,145,570
売買益	40,345,361
売買損	△ 10,199,791
(C) 信託報酬等	△ 3,298,245
(D) 当期損益金(A+B+C)	26,847,231
(E) 前期繰越損益金	32,810,055
(F) 追加信託差損益金	48,721,004
(配当等相当額)	(49,439,110)
(売買損益相当額)	(△ 718,106)
(G) 計(D+E+F)	108,378,290
(H) 収益分配金	△ 5,063,282
次期繰越損益金(G+H)	103,315,008
追加信託差損益金	48,721,004
(配当等相当額)	(49,480,453)
(売買損益相当額)	(△ 759,449)
分派準備積立金	54,594,004

(注) 期首元本額は275,297,777円、期中追加設定元本額は10,338,726円、期中一部解約元本額は201,248,456円、1口当たり純資産額は2,2243円です。

(注) 投資信託財産の運用の指図に係わる権限の全部又は一部を委託する為に要する費用、支払金額613,620円。(野村豪州株マザーファンド)

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含まず。

*損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注) 分配金の計算過程（2021年9月14日～2022年9月12日）は以下の通りです。

項 目	当 期
	2021年9月14日～ 2022年9月12日
a. 配当等収益(経費控除後)	7,109,744円
b. 有価証券売買等損益(経費控除後・繰越欠損金補填後)	19,737,487円
c. 信託約款に定める収益調整金	49,480,453円
d. 信託約款に定める分配準備積立金	32,810,055円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	109,137,739円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	12,932円
g. 分配金	5,063,282円
h. 分配金(1万口当たり)	600円

○分配金のお知らせ

1万口当たり分配金（税込み）	600円
----------------	------

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金（特別分配金）となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金（特別分配金）となります。

○お知らせ

該当事項はございません。

野村豪州株マザーファンド

運用報告書

第13期（決算日2022年9月12日）

作成対象期間（2021年9月14日～2022年9月12日）

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
当作成対象期間の運用状況等についてご報告申し上げます。
今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

●当ファンドの仕組みは次の通りです。

運用方針	オーストラリアの企業の株式（DR（預託証券）を含みます。）を主要投資対象とし、信託財産の成長を目標に積極的な運用を行うことを基本とします。 株式への投資にあたっては、収益性、成長性、安定性、流動性等を総合的に勘案して、投資銘柄を選別します。また、トップダウン・アプローチによる業種別配分を加味し、ポートフォリオを構築します。 外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。
主な投資対象	オーストラリアの企業の株式を主要投資対象とします。
主な投資制限	株式への投資割合には制限を設けません。 外貨建資産への投資割合には制限を設けません。

野村アセットマネジメント

東京都江東区豊洲二丁目2番1号

<http://www.nomura-am.co.jp/>

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		ベンチマーク		株組入比率	株先物比率	純資産額
	円	騰落率	騰落率	騰落率			
9期(2018年9月12日)	17,856	△ 4.3	126.14	△ 2.4	86.8	—	244
10期(2019年9月12日)	19,921	11.6	126.99	0.7	88.2	—	244
11期(2020年9月14日)	19,816	△ 0.5	116.61	△ 8.2	89.3	—	511
12期(2021年9月13日)	27,572	39.1	154.48	32.5	89.8	—	534
13期(2022年9月12日)	32,974	19.6	173.59	12.4	91.5	—	187

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

*ベンチマーク(=S&P/ASX200指数(円換算ベース))は、S&P/ASX200指数(豪ドルベース)をもとに、当社が独自に円換算したものです。なお、指数算出にあたっては、基準価額への反映を考慮して、営業日前日の指数値を営業日当日の為替レート(対顧客電信売買相場仲値)で円換算しております。設定時を100として指数化しております。
*S&P/ASX200指数は、スタンダード&プアーズが発表している、オーストラリア証券取引所上場の時価総額上位200銘柄で構成される時価総額加重平均指数です。当該指数に関する一切の知的財産権その他一切の権利はスタンダード&プアーズ ファイナンシャル サービス エル エル シーに帰属しております。
(出所) ブルームバーグ、為替レート(対顧客電信売買相場仲値)

○当期中の基準価額と市況等の推移

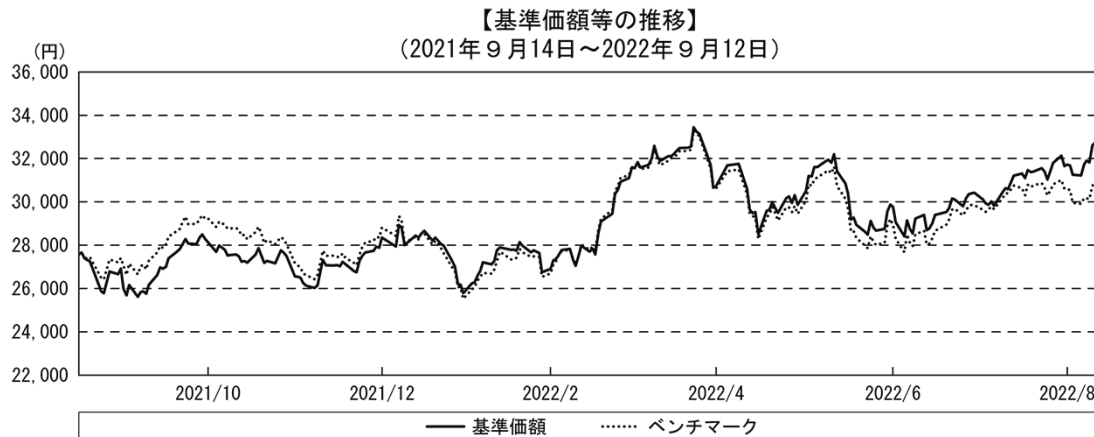
年月日	基準価額		ベンチマーク		株組入比率	株先物比率
	円	騰落率	騰落率	騰落率		
(期首) 2021年9月13日	27,572	—	154.48	—	89.8	—
9月末	25,679	△ 6.9	149.16	△ 3.4	86.9	—
10月末	28,140	2.1	163.82	6.0	90.9	—
11月末	26,542	△ 3.7	151.60	△ 1.9	90.7	—
12月末	28,346	2.8	161.37	4.5	91.4	—
2022年1月末	26,235	△ 4.8	145.41	△ 5.9	91.6	—
2月末	26,904	△ 2.4	149.52	△ 3.2	91.0	—
3月末	31,835	15.5	178.08	15.3	90.3	—
4月末	30,721	11.4	171.52	11.0	89.9	—
5月末	31,193	13.1	172.59	11.7	92.0	—
6月末	29,758	7.9	162.06	4.9	91.8	—
7月末	30,414	10.3	167.18	8.2	92.4	—
8月末	31,718	15.0	171.51	11.0	91.7	—
(期末) 2022年9月12日	32,974	19.6	173.59	12.4	91.5	—

*騰落率は期首比です。

*株式先物比率は買い建て比率-売り建て比率。

◎運用経過

○期中の基準価額等の推移



(注) ベンチマークは、S&P/ASX200指数（円換算ベース）です。作成期首の値が基準価額と同一となるように計算しております。

○基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首27,572円から期末32,974円となりました。

- (横ばい) メルボルンで新型コロナウイルスに伴うロックダウン（都市封鎖）が解除されたこと、RBA（豪州準備銀行）が政策金利を過去最低水準に据え置いたこと、一方で米利上げ前倒し観測が強まったこと、ロシアによるウクライナへの軍事侵攻を受け、市場に先行き不透明感が広がったこと
- (上昇) ロシアへの制裁措置を背景とした供給懸念から資源価格が上昇し資源関連株が上昇したこと、為替市場で豪ドル高・円安が進行したこと
- (下落) RBAによる市場予想を上回る利上げが嫌気されたこと、FRB（米連邦準備制度理事会）による大幅な利上げを受けて、世界的な景気減速への警戒感が強まったこと
- (上昇) 米国の過度な金融引き締め懸念が後退したことや大手資源関連企業が良好な決算を発表したことが好感されたこと、為替市場で豪ドル高・円安が一段と進行したこと

○当ファンドのポートフォリオ

・期中の主な動き

<投資比率を引き上げた主な業種・銘柄>

- ①多角的に事業展開する鉱業および金属企業であり、株価のバリュエーション（投資価値評価）に割安感があると判断したSOUTH32 LTD（金属・鉱業）
- ②天然ガス価格の高騰による恩恵が期待できると判断したWOODSIDE ENERGY GROUP LTD（石油・ガス・消耗燃料）

<投資比率を引き下げた主な業種・銘柄>

- ①資源価格の高騰を背景に株価が堅調に推移してきたものの、コスト上昇による収益への悪影響が懸念された素材セクター
- ②世界的な金利上昇を背景に、株価バリュエーションの割高感が強まったと判断したXERO LIMITED（ソフトウェア）

・為替ヘッジ

当ファンドの方針に従い、為替ヘッジ（為替の売り予約）は行ないませんでした。

○当ファンドのベンチマークとの差異

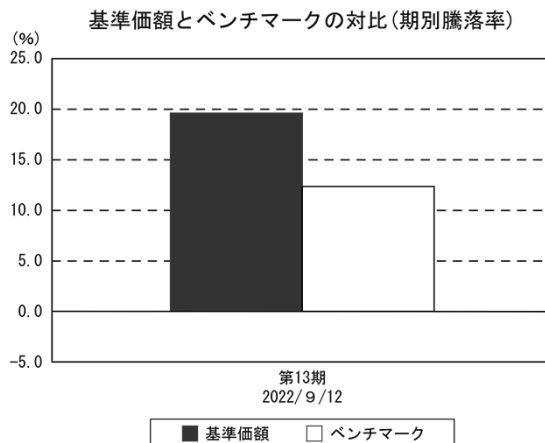
当期は、ベンチマーク（S&P/ASX200指数（円換算ベース））が12.4%の上昇となったのに対して、基準価額は19.6%の上昇となりました。

（主なプラス要因）

- ①EV（電気自動車）の普及が進む中、バッテリー需要の増加によるリチウム需要の増加期待から株価騰落率がベンチマークを上回った金属・鉱業株をベンチマークより高い投資比率としていたこと
- ②世界的な供給制約の高まりなどを背景とした資源価格の上昇期待から株価騰落率がベンチマークを上回った金属・鉱業株をベンチマークより高い投資比率としていたこと

（主なマイナス要因）

- ①世界的な金利上昇を背景に株価騰落率がベンチマークを下回ったソフトウェア株をベンチマークより高い投資比率としていたこと
- ②デジタルゲームビジネスの先行き不透明感が高まったことなどから、株価騰落率がベンチマークを下回ったホテル・レストラン・レジャー株をベンチマークより高い投資比率としていたこと



（注）ベンチマークは、S&P/ASX200指数（円換算ベース）です。

◎今後の運用方針

・投資環境

- ①豪州経済については、底堅い個人消費が景気の下支えになると見ていますが、急速なインフレ率の上昇は短期的に消費者心理に悪影響を及ぼすことから注視が必要と考えます。RBAは9月6日に4ヵ月連続で政策金利を0.5%引き上げ2.35%としました。また、金融政策の正常化へ向けて、今後もインフレ動向を注視しつつ、必要に応じてさらなる利上げを行なう可能性を示唆しました。
- ②株式市場については、短期的には資源関連株を中心として、コロナ禍からの経済活動正常化の動き、ウクライナ情勢、資源価格や米金融政策の動向等に左右されやすい展開が予想されます。一方で、私的年金からの継続的な資金流入があることや、オーストラリアは寡占企業が多く、コストを価格転嫁し易い構造であること、配当利回りが比較的高いことなどが市場を下支えすると見ています。

・投資方針

- ①業種別配分については、素材セクターについては、世界的な金融引き締めによる景気減速で資源需要の後退が懸念されるものの、ウクライナ情勢を背景とした供給制約が続く中、オーストラリアが安定した資源供給国として、今後も継続的な資源需要が期待できることから、投資比率をベンチマークより高めに維持する方針です。金融セクターについては、短期的に金利上昇の影響が懸念されるものの、中長期的な収益成長が期待できる各種金融株の投資比率を高めに維持する方針です。一方で、厳しい競争環境などから銀行株の投資比率を低めに維持する方針です。経済活動正常化やインフレの恩恵が期待できる銘柄、高齢化対策や教育需要の高まりなど、中長期のテーマで成長が期待できる銘柄について、幅広い業種で投資を行なう方針です。
- ②銘柄選択は、個別企業の財務リスクなどに注意しながら、今後も高い成長が期待でき、かつ成長性と比較して割安と判断される銘柄などを中心に投資を行なう方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2021年9月14日～2022年9月12日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料	円 31	% 0.106	(a) 売買委託手数料=期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株 式)	(30)	(0.103)	
(投資信託証券)	(1)	(0.003)	
(b) そ の 他 費 用	65	0.225	(b) その他費用=期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(64)	(0.222)	保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用
(そ の 他)	(1)	(0.003)	信託事務の処理に要するその他の諸費用
合 計	96	0.331	
期中の平均基準価額は、28,957円です。			

*各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

*各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2021年9月14日～2022年9月12日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	オーストラリア	百株	千豪ドル	百株	千豪ドル
		1,401 (20)	1,120 (11)	2,549	5,108

*金額は受け渡し代金。

*単位未満は切り捨て。

*()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

投資信託証券

銘柄		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
外国	オーストラリア	口	千豪ドル	口	千豪ドル
	DEXUS/AU	993	10	29,670	316

*金額は受け渡し代金。

*金額の単位未満は切り捨て。

*銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

○株式売買比率

(2021年9月14日～2022年9月12日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	523,771千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	160,987千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	3.25

* (b) は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

○利害関係人との取引状況等

(2021年9月14日～2022年9月12日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2022年9月12日現在)

外国株式

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		業 種 等	
	株 数	株 数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(オーストラリア)	百株	百株	千豪ドル	千円		
AUSTRALIA & NEW ZEALAND BANK	148	58	134	13,143	銀行	
AMCOR PLC-CDI	134	—	—	—	容器・包装	
FORTESCUE METALS GROUP LTD	223	80	142	13,936	金属・鉱業	
BHP GROUP LIMITED	106	—	—	—	金属・鉱業	
CSL LIMITED	9	4	143	14,012	バイオテクノロジー	
TRANSURBAN GROUP	—	90	125	12,239	運送インフラ	
RIO TINTO LTD	42	—	—	—	金属・鉱業	
ARISTOCRAT LEISURE LTD	127	38	134	13,168	ホテル・レストラン・レジャー	
NATIONAL AUSTRALIA BANK	201	54	163	16,021	銀行	
NEWCREST MINING	84	—	—	—	金属・鉱業	
INSIGNIA FINANCIAL LTD	832	208	68	6,699	資本市場	
QBE INSURANCE	235	—	—	—	保険	
WOOLWORTHS GROUP LTD	111	32	116	11,392	食品・生活必需品小売り	
MINERAL RESOURCES LTD	28	—	—	—	金属・鉱業	
PILBARA MINERALS LTD	—	327	147	14,389	金属・鉱業	
MACQUARIE GROUP LIMITED	34	9	160	15,644	資本市場	
TREASURY WINE ESTATES LTD	—	41	55	5,434	飲料	
XERO LIMITED	25	—	—	—	ソフトウェア	
UNITED MALT GRP LTD	307	—	—	—	食品	
WOODSIDE ENERGY GROUP LTD	—	48	158	15,465	石油・ガス・消耗燃料	
SOUTH32 LTD	—	395	167	16,419	金属・鉱業	
COSTA GROUP HOLDINGS LTD	—	134	35	3,428	食品	
合 計	株 数	金 額	2,652	1,524	1,753	171,395
	銘柄 数 < 比率 >		16	14	—	< 91.5% >

* 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

* 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率。

* 株数・評価額の単位未満は切り捨て。

* 銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

外国投資信託証券

銘柄	期首(前期末)		当 期 末		比 率	
	口 数	口 数	評 価 額			
			外貨建金額	邦貨換算金額		
(オーストラリア)	口	口	千豪ドル	千円	%	
DEXUS/AU	42,472	13,795	116	11,407	6.1	
合 計	口 数	金 額	42,472	13,795	116	11,407
	銘柄 数 < 比率 >		1	1	—	< 6.1% >

* 邦貨換算金額は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

* 比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

* 金額の単位未満は切り捨て。

* 銘柄コード等の変更があった銘柄は、別銘柄として掲載しております。

○投資信託財産の構成

(2022年9月12日現在)

項 目	当 期 末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
株式	171,395	91.5
投資証券	11,407	6.1
コール・ローン等、その他	4,532	2.4
投資信託財産総額	187,334	100.0

*金額の単位未満は切り捨て。

*当期末における外貨建純資産(186,380千円)の投資信託財産総額(187,334千円)に対する比率は99.5%です。

*外貨建資産は、期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。1豪ドル=97.75円。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2022年9月12日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	187,334,203
コール・ローン等	2,219,961
株式(評価額)	171,395,021
投資証券(評価額)	11,407,982
未収配当金	2,311,239
(B) 負債	0
(C) 純資産総額(A-B)	187,334,203
元本	56,812,582
次期繰越損益金	130,521,621
(D) 受益権総口数	56,812,582口
1万口当たり基準価額(C/D)	32,974円

(注) 期首元本額は193,904,354円、期中追加設定元本額は6,917,987円、期中一部解約元本額は144,009,759円、1口当たり純資産額は3,2974円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本額・ノムラ・アジア・シリーズ(ノムラ・豪州・フォーカス) 56,812,582円

○損益の状況 (2021年9月14日～2022年9月12日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	8,907,491
受取配当金	8,614,130
その他収益金	294,645
支払利息	△ 1,284
(B) 有価証券売買損益	13,380,758
売買益	51,886,641
売買損	△ 38,505,883
(C) 保管費用等	△ 399,336
(D) 当期損益金(A+B+C)	21,888,913
(E) 前期繰越損益金	340,733,189
(F) 追加信託差損益金	12,986,418
(G) 解約差損益金	△245,086,899
(H) 計(D+E+F+G)	130,521,621
次期繰越損益金(H)	130,521,621

*損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。

*損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

*損益の状況の中で(G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

該当事項はございません。